

FBCラジオキャンパス第2部「ようこそ県大研究室」。

福井県立大学の研究などをご紹介します。

本日のゲストは、福井県立大学 経済学部 教授 でいらっしやいます

ベロフ・アンドレイさんです。

どうぞよろしくお願い致します。

よろしく申し上げます。

Q ベロフ先生のご専門はロシア経済ですね。ロシアの冬季五輪が終わりましたが、2月中旬の二週間でロシアは政界の注目を集めました。オリンピックによる経済効果というのはどうなったのでしょうか。

A オリンピック開催による経済効果は短期的・中期的・長期的なものに分類できます。短期的には、数百万人の観光客がこられて、テレビ放送権の販売などの収入がありました。中期的には、オリンピック会場の建設によって周辺の地域への設備投資が増え、地域経済の成長率が上がりました。長期的には、新しい空港・鉄道・オリンピック会場などの整備によってソチ市は生まれ変わったといっても過言ではないと思います。これからも、ロシアは大規模な国際イベントを開いて、この準備で地域開発を行う予定です。

たとえば、2018年のサッカーワールドカップはロシアで開かれます。したがって、ソチオリンピックの成功によってロシアでは新たな地域開発の方式が誕生しました。これは冬季五輪の一番大きな効果であったと思います。

Q ソチ市を超えて、全体のロシア経済はどうなっていますか。

A 昨年、経済成長率は約1.4%になりました。ロシア政府は成長率が3~4%になると予測しましたが、実績は予測を大きく下回りました。理由は三つあります。第一に、2012年にロシアはWTO（世界貿易機構）へ加盟して、輸入税を引き下げました。輸入が増え、ロシア国内の製品の一部は売れなくなったので、経済に対する様々な悪影響が出ました。

第二に、為替レートの動きを上げられます。2010~2012年にロシア通貨であるルーブルの為替レートは上昇し、実質的な「ルーブル高」となりました。日本においても最近までに円高は続き、輸出企業は大変でしたね。ロシアでも日本と同じように「ルーブル高」による輸出減・輸入増・国内生産の伸び悩みが見られました。

第三に、ロシアの金融政策が挙げられます。2013年にインフレの対策として、ロシアの中央銀行は通貨発行量を厳しく制限しました。一部の企業は資金不足に陥り、これも設備投資の縮小および生産の減少につながりました。日本において金融政策の中心は「数量的

緩和」となっていますが、ロシアはインフレと戦っていますので、通貨量を圧縮していません。

Q 日本は最近までインフレではなく、デフレでしたね。ロシアのインフレ率は高いですか。

A 昨年のインフレ率は6.5%となりました。数十年にわたって高インフレが続いています。物価の伸びによって国内の生産コストも高くなっていますし、所得の上昇がインフレに追いつかないときに生活水準が下がります。日本では「デフレ脱却」・「インフレ目標政策」はアベノミクスの中心となっています。しかし、インフレの状態でありながら、所得は上昇しないと生活水準も家計消費も、そして国内需要も縮小しますので、経済成長は停滞します。今の日本には物価上昇の兆しがはっきり見えてきましたが、所得上昇への具体的な動きはまだです。近いうちに日本の経済政策の重点は「デフレ脱却」から「所得上昇」へ移転しないと、国内経済および社会に対して悪影響がでる可能性があります。これはロシアの二十年以上続いている「インフレとの戦い」からの重要な教訓と言えるでしょう。

Q ロシア政府は景気回復のためにどんな政策を行っているのでしょうか。

A 日本経済とロシア経済は直接に比較できませんが、今年のロシア経済政策には日本のアベノミクスに非常によく似ているポイントが表れました。具体的に、金融において「数量的緩和」、為替政策において「ルーブル安」、成長促進においては「投資環境の改善」および「自由化」が行われています。ある意味でロシア政府は日本の経験も参考しています。2月の時点でロシアの経済に実際的な効果はまだ見られていませんが、多くの専門家は新しい政策に期待しています。政府の予測によれば、今年中に経済成長率は2.5%、そして来年・再来年には3~4%になります。予測通りに行けば非常に嬉しいですね。

Q 景気の動きによって日ロ関係および福井とロシアとの関係はどうなるのでしょうか。

A 日本の輸入はガス・石油などの燃料が中心となっています。エネルギー分野における日ロ協力は長期的な開発プロジェクトに基づいていますので、景気の変動による影響は少ないでしょう。他方、日本の輸出は自動車が多いです。自動車の販売はロシアの国内景気、所得動向、内需によって激しく上下します。福井とロシアとの関係についても同様なことをいえます。しかし、今の福井県とロシアとの貿易は極めて少ないので、変動の幅も狭いです。福井の港から新車は輸出されていませんし、エネルギー資源の輸入もわずかです。ロシアの天然ガスを敦賀港経由で輸入するようになれば、福井とロシアとの貿易は大きく増えます。ガスの輸入に関する日ロの交渉は近いうちに具体的な段階に入ると期待します。

Q ちなみに、ベロフ先生は福井は長いですか。生活環境についてどう思われますか。

A 福井県立大学に就職してから 16 年です。個人的なことを言いますと、私の生まれたロシアの地域は福井と違って山がまったくありません。スキーのできる一番近い山まで行こうとするなら、一時間かかります。飛行機で一時間ですよ。私は生まれてから 26 歳になるまでに山を見たことのない人物です。ですから、山と暖かい海に囲まれている福井が大好きになりました。夏には海水浴場、冬はスキー、そして一年を通して山登りを楽しんでいます。料理としては、越前の甘エビ、そして鯖江産の「梵」(BORN) という日本酒より美味いものはないと思います。福井はすばらしい所ですよということを皆様に伝えたいです。